

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第5241389号
(P5241389)

(45) 発行日 平成25年7月17日(2013.7.17)

(24) 登録日 平成25年4月12日(2013.4.12)

(51) Int.Cl. F 1
A 4 5 D 33/00 (2006.01) A 4 5 D 33/00 6 1 0 H

請求項の数 4 (全 14 頁)

(21) 出願番号	特願2008-231680 (P2008-231680)	(73) 特許権者	000160223
(22) 出願日	平成20年9月10日 (2008.9.10)		吉田プラ工業株式会社
(65) 公開番号	特開2010-63564 (P2010-63564A)		東京都墨田区立花5丁目29番10号
(43) 公開日	平成22年3月25日 (2010.3.25)	(74) 代理人	100094042
審査請求日	平成23年8月31日 (2011.8.31)		弁理士 鈴木 知
		(74) 代理人	100071283
			弁理士 一色 健輔
		(72) 発明者	吉田 雄三
			東京都墨田区立花5丁目29番10号 吉田プラ工業株式会社内
		(72) 発明者	中島 靖子
			東京都墨田区立花5丁目29番10号 吉田プラ工業株式会社内
		審査官	大谷 謙仁

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 コンパクト容器

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

後壁部に蓋体が回動自在に連結された容器本体の左右両側それぞれに、外方からの押圧操作により、内方へ向けて弾性変形可能な一对の側壁部を形成し、これら一对の側壁部の間に、前後方向スライド自在に化粧料皿を嵌着し、該化粧料皿と該蓋体との間に、これら化粧料皿と蓋体とを係脱自在に係合して該容器本体の閉蓋状態を保持し、該化粧料皿のスライド移動によって、その係合を解除するフック部が設けられるとともに、上記化粧料皿には、上記一对の側壁部それぞれに面して、該側壁部への押圧操作によって該化粧料皿をスライド移動させる一对の操作片を一体形成することを特徴とするコンパクト容器。

【請求項2】

前記側壁部は、これら左右の側壁部に対応させて、それぞれの長さ方向に沿って該容器本体の底壁部に形成される一对のスリットにより弾性変形可能に形成されることを特徴とする請求項1に記載のコンパクト容器。

【請求項3】

前記化粧料皿と、前記容器本体の前記後壁部および前記前壁部のいずれかとの間には隙間が形成され、該隙間内には、前方若しくは後方へスライド移動した該化粧料皿により弾性変形され、その弾性復原力によって該化粧料皿を元の位置へ押し戻す弾性変形部材が設けられることを特徴とする請求項1または2に記載のコンパクト容器。

【請求項4】

前記蓋体には、その前端に前記容器本体の前記前壁部全体をその前方から覆う垂下前壁

部が形成されたことを特徴とする請求項 1 ~ 3 いずれかの項に記載のコンパクト容器。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、左右側壁部を外方から押圧操作することで、容器本体と蓋体との係合状態を解除可能なコンパクト容器において、開閉時の操作性を安定させ、組み付け性を良好にし、生産性も良好なコンパクト容器に関する。

【背景技術】

【0002】

従来、容器本体の両側壁部の外方からの押圧操作で、蓋体を開放するコンパクト容器として、例えば特許文献 1 が知られている。

【0003】

特許文献 1 のコンパクト容器は、容器本体の底壁部に、側壁部の長さ方向に沿って形成されるスリットにより、側壁部が容器本体内方へ押圧操作可能に弾性変形される。他方、容器本体には、その内部に中皿が収納され、中皿で覆われた底壁部には溝部が形成され、溝部には薄板状のスライドピースが設けられる。スライドピースは、弾性変形された側壁部によって押圧操作されることで、溝部内でスライド移動される。そして、スライドピースの前端側に形成され、スライドピースのスライド移動に応じて前後方向に移動する係合部が、蓋体に設けられる突起に係脱自在に係合されて、容器本体と蓋体とを係合する。

【特許文献 1】特開 2007 - 289290 号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

ところで、背景技術にあっては、蓋体と容器本体とを係脱自在に係合するために、容器本体と中皿としての化粧料皿との間に、その前端部に係合部を形成したスライドピースが、別部品として組みこまれている。これにより、コンパクト容器の部品点数が多くなり、操作の際に安定感がないという課題があった。また、製造が繁雑になるという課題もあった。

【0005】

本発明は上記従来の課題に鑑みて創案されたものであって、左右側壁部を押圧操作することで、容器本体と蓋体との係合状態を解除可能なコンパクト容器において、開閉時の操作性を安定させ、組み付け性を良好にし、生産性も良好なコンパクト容器を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0006】

本発明にかかるコンパクト容器は、後壁部に蓋体が回動自在に連結された容器本体の左右両側それぞれに、外方からの押圧操作により、内方へ向けて弾性変形可能な一对の側壁部を形成し、これら一对の側壁部の間に、前後方向スライド自在に化粧料皿を嵌着し、該化粧料皿と該蓋体との間に、これら化粧料皿と蓋体とを係脱自在に係合して該容器本体の閉蓋状態を保持し、該化粧料皿のスライド移動によって、その係合を解除するフック部が設けられるとともに、上記化粧料皿には、上記一对の側壁部それぞれに面して、該側壁部への押圧操作によって該化粧料皿をスライド移動させる一对の操作片を一体形成することを特徴とする。

【0007】

前記側壁部は、これら左右の側壁部に対応させて、それぞれの長さ方向に沿って該容器本体の底壁部に形成される一对のスリットにより弾性変形可能に形成されることを特徴とする。

【0008】

前記化粧料皿と、前記容器本体の前記後壁部および前記前壁部のいずれかとの間には隙間が形成され、該隙間内には、前方若しくは後方へスライド移動した該化粧料皿により弾

10

20

30

40

50

性変形され、その弾性復原力によって該化粧料皿を元の位置へ押し戻す弾性変形部材が設けられることを特徴とする。

【0009】

前記蓋体には、その前端に前記容器本体の前記前壁部全体をその前方から覆う垂下前壁部が形成されたことを特徴とする。

【発明の効果】

【0010】

本発明にかかるコンパクト容器にあつては、左右側壁部を外方から押圧操作することで、容器本体と蓋体との係合状態を解除可能なコンパクト容器において、開閉時の操作性を安定させることができ、組み付け性を良好にし、生産性も良好にすることができる。

10

【発明を実施するための最良の形態】

【0011】

以下に、本発明にかかるコンパクト容器の好適な一実施形態を、添付図面を参照して詳細に説明する。本実施形態にかかるコンパクト容器1は基本的には、図1～図13に示すように、後壁部21に蓋体3が回動自在に連結された容器本体2の左右両側それぞれに、外方からの押圧操作により、内方へ向けて弾性変形可能な一对の側壁部23、24を形成し、これら一对の側壁部23、24の間に、前後方向スライド自在に化粧料皿4を嵌着し、化粧料皿4と蓋体3との間に、これら化粧料皿4と蓋体3とを係脱自在に係合して容器本体2の閉蓋状態を保持し、化粧料皿4のスライド移動によって、その係合を解除するフック部が設けられるとともに、化粧料皿4に、一对の側壁部23、24それぞれに面して

20

【0012】

側壁部23、24は、これら左右の側壁部23、24に対応させて、それぞれの長さ方向に沿って容器本体2の底壁部25に形成される一对のスリット27により弾性変形可能に形成される。

【0013】

化粧料皿4と、容器本体2の後壁部21および前壁部22のいずれかとの間には隙間Sが形成され、隙間S内には、前方もしくは後方へスライド移動した化粧料皿4により弾性変形し、その弾性復原力によって化粧料皿4を元の位置へ押し戻す弾性変形部材が設けら

30

【0014】

蓋体3には、その前端に容器本体2の前壁部22全体をその前方から覆う垂下前壁部31が形成される。

【0015】

コンパクト容器1は主に、容器本体2と、蓋体3と、容器本体2内部に収納される化粧料皿4とからなる。容器本体2は合成樹脂材で形成される。容器本体2には、底壁部25の周縁にその周方向に沿って、前壁部22、後壁部21、および左右の側壁部23、24としての周側壁部20が立設される。図示例にあつては、容器本体2は、前壁部22および後壁部21に対して、左右の側壁部23、24の長さが長く、その平面外形輪郭が縦長の長方形に形成される。容器本体2は縦長の長方形に限られず、正方形など他の形状であっても良い。周側壁部20の上端には、これより内方に延設される上縁部が形成される。

40

【0016】

容器本体2には、蓋体3が回動自在に連結される。蓋体3は合成樹脂材で形成され、天板32の周縁にその周方向に沿って環状周壁部30が立設されて、容器本体2に合致する平面外形輪郭で皿状に形成される。蓋体3もまた縦長の長方形に限られず、正方形など他の形状であっても良い。天板32の裏面には、板状の鏡33が取り付けられる。蓋体3には、その前端に容器本体2の前壁部22全体をその前方から覆う垂下前壁部31が形成される。

50

【 0 0 1 7 】

容器本体 2 の後壁部 2 1 には、左右方向両端からそれぞれ後方へ突出させて、一对のヒンジ片 5 0 が形成される。ヒンジ片 5 0 の間には凹所 5 3 が形成される。また蓋体 3 の環状周壁部 3 0 には、これより凹所 5 3 内に垂下させて、ヒンジブロック 5 1 が形成される。そしてこれらヒンジブロック 5 1 とヒンジ片 5 0 との間には、それぞれヒンジピン 5 4 が挿入される。これによりヒンジ片 5 0 にヒンジブロック 5 1 が回動自在に連結されて、容器本体 2 を開閉すべく蓋体 3 が回動されるようになっている。

【 0 0 1 8 】

ヒンジブロック 5 1 と後壁部 2 1 との間には、蓋体 3 を開放方向へ付勢する弾性変形可能な付勢部材 5 2 が配設される。より具体的には、後壁部 2 1 の略中央に凹所 5 3 に面して、後壁部 2 1 を前後方向に貫通させた装着部 2 1 a が形成され、装着部 2 1 a 内に付勢部材 5 2 が装着される。付勢部材 5 2 はゴム材で形成される。付勢部材 5 2 は、装着部 2 1 a 内に装着される中央部が肉薄に形成され、これより前方へ突出させて、前部 5 2 a が肉厚に形成される。また、装着部 2 1 a 内の中央部から凹所 5 3 内に突出させて、後部 5 2 b が形成される。後部 5 2 b は、その前後巾が、凹所 5 3 内に配設されたヒンジブロック 5 1 と後壁部 2 1 との間に形成される間隙 5 2 よりも、肉厚に形成されている。これにより、閉蓋状態では、後部 5 2 b は、凹所 5 3 内でヒンジブロック 5 1 により圧縮されており、後述するフック部の係合を解除して、閉蓋状態が解除されると、蓋体 3 が開放方向に向けて付勢される。なお、付勢部材 5 2 はゴム製に限られず、蓋体 3 を付勢するものであれば、例えば、金属製や合成樹脂製のスプリングバネ、その他のバネなど一般周知のものでよい。

【 0 0 1 9 】

容器本体 2 には、周側壁部 2 0 に取り囲まれて化粧料皿収納部 5 が形成される。化粧料皿収納部 5 には化粧料皿 4 が収納される。化粧料皿 4 は合成樹脂材で形成される。化粧料皿 4 には、前後方向 2 ヶ所に化粧料やパフなどの化粧具を収納するための前皿部 4 3、および後皿部 4 4 が凹設される。他方、化粧料皿 4 には、前皿部 4 3 および後皿部 4 4 の周縁から、これらを取り囲むような形状の枠部 4 5 が形成される。枠部 4 5 は、その周縁部が容器本体 2 の周側壁部 2 0 の上縁部よりも小さく、かつ、周側壁部 2 0 の上縁部に重ねあわされる程度の大きさに形成される。これにより、化粧料皿 4 を化粧料皿収納部 5 に収納した状態で、枠部 4 5 の周縁部の下面が、容器本体 2 の周側壁部 2 0 の上縁部に当接するようになっている。

【 0 0 2 0 】

化粧料皿 4 は、皿部 4 3、4 4 の前後方向の長さが、化粧料皿収納部 5 の前後方向の長さよりも短く形成されている。これにより、化粧料皿 4 は、化粧料皿収納部 5 内を前後方向にスライド自在に移動可能となる。

【 0 0 2 1 】

化粧料皿収納部 5 には、底壁部 2 5 より立ち上げて嵌合部 2 8 が形成される。嵌合部 2 8 は、左側壁部 2 3 および右側壁部 2 4 にそれぞれ近接させて前後 2 ヶ所ずつに形成される。嵌合部 2 8 には、その上端より内方に突出させて嵌合片 2 8 a が形成される。底壁部 2 5 の左右方向中央には、前後方向に沿って適宜な長さの案内片 2 6 が突出形成される。

【 0 0 2 2 】

前皿部 4 3 および後皿部 4 4 には、それぞれの左右両側壁の外面に、これより外方へむけて、嵌合部 2 8 に係止される係止部 4 7 が突設される。化粧料皿 4 は、係止部 4 7 が嵌合部 2 8 の嵌合片 2 8 a を乗り越えてこれに係止されることによって、左右側壁部 2 3、2 4 間の化粧料皿収納部 5 内に嵌着される。

【 0 0 2 3 】

また、化粧料皿 4 には、その底面に、後述するフック 4 1 の前後方向略中央から、前皿部 4 3 および後皿部 4 4 に亘って、案内片 2 6 に嵌め合わされて、化粧料皿 4 の前後移動を案内する案内溝 4 6 が刻設される。

【 0 0 2 4 】

10

20

30

40

50

容器本体 2 には、その前壁部 2 2 に、これを前後方向に貫通する孔部 2 2 a が形成される。化粧料皿 4 の前端部 4 0 には、前皿部 4 3 の前壁の外側から前方へ突出させて、孔部 2 2 a に挿抜自在に挿入されるフック 4 1 が形成される。化粧料皿収納部 5 内で化粧料皿 4 が前方にスライド移動すると、フック 4 1 が孔部 2 2 a を介して前壁部 2 2 の外側へ突出する。他方、蓋体 3 の垂下前壁部 3 1 には、容器本体 2 の前壁部 2 2 に面する裏面に、孔部 2 2 a から突出したフック 4 1 と係脱自在に係合する凹溝状の係合部 3 1 a が形成される。化粧料皿収納部 5 内で化粧料皿 4 が前方へスライド移動すると、フック 4 1 が前壁部 2 2 を介して係合部 3 1 a と係合する。フック 4 1 と係合部 3 1 a によりフック部が構成され、このフック部が係合状態を維持することによって閉蓋状態が保持される。

【 0 0 2 5 】

容器本体 2 の左右両側壁部 2 3、2 4 は、外方からの押圧操作により、内方へ向けて弾性変形可能に形成される。図示例にあっては、容器本体 2 の底壁部 2 5 に、その嵌合部 2 8 と左右の側壁部 2 3、2 4 との間に位置させて、側壁部 2 3、2 4 それぞれの長さ方向ほぼ全長に亘って、一对のスリット 2 7 が形成されている。これにより、左右の側壁部 2 3、2 4 は、弾性変形可能に変形されることとなる。

【 0 0 2 6 】

化粧料皿 4 には、容器本体 2 の左右の側壁部 2 3、2 4 それぞれに面して、側壁部 2 3、2 4 への押圧操作によって、化粧料皿 4 を後方へスライド移動させる、一对の操作片 4 2 が形成される。操作片 4 2 は、その前端が前皿部 4 3 の後壁外面に接合されて、化粧料皿 4 に一体的に形成される。また、操作片 4 2 の後端部は、後皿部 4 4 の側壁に沿うように、後方へ向かって湾曲させて形成されている。これにより、操作片 4 2 には、その前端から後方に行くに従って、側壁部 2 3、2 4 に向かって次第に近接し、後端がこれら側壁部 2 3、2 4 に当接する傾斜面 4 2 a が形成される。押圧操作された側壁部 2 3、2 4 が、傾斜面 4 2 a に当接しつつ内方へ弾性変形すると、側壁部 2 3、2 4 が傾斜面 4 2 a を押圧し、これにより操作片 4 2 には後方へ移動する操作力が発生し、これに伴って、操作片 4 2 を介して化粧料皿 4 が後方へスライド移動する。

【 0 0 2 7 】

化粧料皿 4 と、後壁部 2 1 および前壁部 2 2 のいずれかとの間には、適宜な間隔の隙間 S が形成される。隙間 S 内には、後方へスライド移動した化粧料皿 4 により弾性変形し、その弾性復原力によって、化粧料皿 4 を押圧操作前の元の位置へ押し戻す弾性変形部材が設けられる。

【 0 0 2 8 】

図示例にあっては、後皿部 4 4 の後壁と、容器本体 2 の後壁部 2 1 との間に隙間 S が形成されており、隙間 S 内に弾性変形部材としての弓形状バネ 6 0 が一对配設されている。各弓形状バネ 6 0 は、その前端部が、後皿部 4 4 の後壁外面に接合されて、化粧料皿 4 に一体的に形成される。また、弓形状バネ 6 0 は、その前端部から後端部 6 1 にかけて、後方へ向かって緩やかに湾曲する弓状に形成される。側壁部 2 3、2 4 の押圧操作により、化粧料皿 4 が後方へスライド移動して隙間 S の領域が狭まると、一对の弓形状バネ 6 0 は、その後端部 6 1 が容器本体 2 の後壁部 2 1 に当接しつつ、隙間 S 内で弾性変形される。そして、側壁部 2 3、2 4 の押圧操作を解除すると、後端部 6 1 が後壁部 2 1 に反力をとって、弓形状バネ 6 0 は隙間 S 内で弾性復原し、これによって、化粧料皿 4 を元の位置まで前方へスライド移動させる。

【 0 0 2 9 】

次に、本実施形態にかかるコンパクト容器 1 の作用を説明する。コンパクト容器 1 を製作するにあっては、係止部 4 7 を嵌合部 2 8 の嵌合片 2 8 a に係止させて、化粧料皿収納部 5 内に化粧料皿 4 を前後方向スライド自在に嵌着する。そして、後壁部 2 1 の装着部 2 1 a へ付勢部材 5 2 を嵌着した上で、ヒンジブロック 5 1 とヒンジ片 5 0 にヒンジピン 5 4 を連通して、容器本体 2 に蓋体 3 を回動自在に連結する。

【 0 0 3 0 】

蓋体 3 を開放するにあっては、コンパクト容器 1 を下から支えるように片手で持ち、左

10

20

30

40

50

右の側壁部 2 3、2 4 を手指などで押圧する。この押圧操作の際には、左右の側壁部 2 3、2 4 の前後方向略中央よりも手前側、つまりは傾斜面 4 2 a よりも手前側を押圧するのが望ましい。すると、傾斜面 4 2 a の手前側で内方へ押圧された側壁部 2 3、2 4 が、傾斜面 4 2 a を介して操作片 4 2 をそれぞれ押圧して、化粧料皿 4 が後方へスライド移動する。これに伴い、フック 4 1 も後方へスライド移動し、これと係合部 3 1 a との係合が解除される。係合が解除されると、ヒンジブロック 5 1 で圧縮されていた付勢部材 5 2 の後部 5 2 a が復原し、蓋体 3 が開放される。

【 0 0 3 1 】

他方、化粧料皿 4 が後方へスライド移動したことによって、隙間 S 内の弓形状バネ 6 0 は、その後端部 6 1 が後壁部 2 1 に当接して弾性変形する。側壁部 2 3、2 4 の押圧操作を解除すると、隙間 S 内の弓形状バネ 6 0 が復原する。これに伴って、側壁部 2 3、2 4 を押圧操作する前の元の位置まで、化粧料皿 4 が前方へスライド移動する。

【 0 0 3 2 】

蓋体 3 を閉止するにあつては、手指などで蓋体 3 を上方から押圧する。すると、フック 4 1 が、係合部 3 1 a に押圧されて化粧料皿 4 とともに後方へ移動し、フック 4 が、係合部 3 1 a を乗り越えてこれに係合される。

【 0 0 3 3 】

上記コンパクト容器 1 は、背景技術のように、フック機能を有し、前後方向にスライド移動するスライドピースを別部品として設けたコンパクト容器に比べて、化粧料皿 4 自体に、フック 4 1 と操作片 4 2 を形成したことによって、側壁部 2 3、2 4 を押圧操作すれば、その押圧力が側壁部 2 3、2 4 から、操作片 4 2 を介して化粧料皿 4 にへ直接作用するため、開蓋などの操作性を安定することができる。

【 0 0 3 4 】

これに加えて、フック 4 1 と操作片 4 2 とを化粧料皿 4 に一体成形したことによって、容器本体 2、蓋体 3 および化粧料皿 4 という、コンパクト容器 1 の基本構成部品のみで開蓋操作を行うことができるため、上述のスライドピースなどの構成部品が必要なく、部品点数を少なくでき、組み付け性を良くすることができるとともに、製造コストを削減できることで生産性を良くすることもできる。

【 0 0 3 5 】

本実施形態では、一对の側壁部 2 3、2 4 を、これらそれぞれに対応させたスリット 2 7 を形成することによって弾性変形可能にしたが、側壁部 2 3、2 4 が弾性変形可能に形成されていれば、上記のような構成でなくても良い。例えば、側壁部 2 3、2 4 を可撓性に富んだ合成樹脂材で形成することなどによって、弾性変形可能に形成してもよい。しかしながら、本実施形態のように、一对のスリット 2 7 によって、弾性変形可能な側壁部 2 3、2 4 を形成することで、比較的硬質な合成樹脂材などをも用いることが可能となる。これによって、意匠性の優れた高級感のあるコンパクト容器を製作することができる。

【 0 0 3 6 】

さらに、本実施形態にあつては、一对のスリット 2 7 は、側壁部 2 3、2 4 それぞれの長さ方向ほぼ全長に亘って形成されている。これにより、側壁部 2 3、2 4 が柔軟に弾性変形することができ、軽い押圧力であっても、容易に開蓋操作することができる。

【 0 0 3 7 】

弾性変形部材を、化粧料皿 4 と容器本体 2 の後壁部 2 1 の間に設けたことによって、側壁部 2 3、2 4 への押圧操作を解除すれば、化粧料皿 4 を元の位置へ押し戻すことができ、確実な閉蓋操作が可能となる。これに加えて、本実施形態では、弓形状バネ 6 0 を化粧料皿 4 と一体的に形成したので、上記同様、操作の安定性を確保でき、部品点数を少なくして、組み付け性、生産性を向上させることができる。

【 0 0 3 8 】

本実施形態では、蓋体 3 に垂下前壁部 3 1 を設けるようにしている。これによって閉蓋時には、垂下前壁部 3 1 が容器本体 2 の前壁部 2 2 全体を覆うこととなり、コンパクト容器 1 全体の外観を良好にすることができる。これに加えて、フック 4 1 を化粧料皿 4 の前

10

20

30

40

50

端部 40 に形成し、容器本体 2 の前壁部 22 の孔部 22a から突出させたことで、化粧時などに、周囲に飛散する化粧料が、孔部 22a やフック 41 の周囲に付着しにくいいため、操作不良などの不具合を起こりにくくすることができる。

【0039】

本実施形態では、化粧料皿 4 は、2つの皿部 43、44 を有するものであった。しかし、化粧料皿 4 の形状はこれに限られず、例えば、1つの皿部を有するものであっても良い。この場合、操作片 42 の前端は、皿部の側壁外面に接合される。

【0040】

本実施形態では、隙間 S に配設される弾性変形部材は化粧料皿 4 に一体成形された弓形状バネ 60 であった。しかし、弾性変形部材は、化粧料皿 4 に一体成形されていなくても良い。また、弾性変形部材の形状や材質についても、上記実施形態に限られず、例えば図 14 に示すような金属製や合成樹脂製の板状バネ 62 を隙間 S 内に配設してもよいし、図 15 に示すようなゴム状バネ 63 などを隙間 S 内に配設しても良い。

10

【0041】

本実施形態では、隙間 S は、容器本体 2 の後壁部 21 と化粧料皿 4 との間に形成されているけれども、隙間 S は、容器本体 2 の前壁部 22 と化粧料皿 4 との間に形成していても良い。この場合、弾性変形部材は、化粧料皿 4 の後方へのスライド移動によって引張されるタイプのバネを使用することが望ましい。

【0042】

次に、本実施形態にかかるコンパクト容器 1 のフック部の変形例を説明する。

20

【0043】

本変形例にあつては、図 16 に示すように、垂下前壁部 31 に代えて、通常の前壁部 34 が形成される。前壁部 34 は、容器本体 2 に合致する平面外形輪郭で皿状に形成された環状周側壁 30 の前端部に、その一部として形成されており、閉蓋状態では、容器本体 2 の前壁部 22 の外面とほぼ段差なく形成されている。蓋体 3 には、これより化粧料収納部 5 内に垂下させて爪部 70a が形成される。爪部 70a には、その下端に、これより後方へ向けて突出させたフック 70b が形成される。他方、化粧料皿 4 の枠部 45 前端には、フック 70b に係合される係合部 70c が垂下形成される。これらフック 70b と係合部 70c により、フック部が構成される。

【0044】

30

開蓋操作の際には、側壁部 23、24 の押圧操作で化粧料皿 4 が後方へのスライド移動することによって係合部 70c が後方へ移動することで、係合部 70c とフック 70b との係合が解除される。

【0045】

次に、本発明にかかるコンパクト容器の第 2 実施形態を詳細に説明する。本実施形態にあつては、第 1 実施形態との差異のみを説明する。

【0046】

本実施形態にかかるコンパクト容器 1 は、側壁部 23、24 の押圧操作によって化粧料皿 4 が前方へスライド移動する形態である。このコンパクト容器 1 は、図示はしないが、一对の操作片が側壁部 23、24 に対して、逆側に傾斜させた状態で化粧料皿 4 に取り付けられている。つまりは、操作片 42 は、その後端部が後皿部 44 の前壁外面と接合された状態で、化粧料皿 4 に一体的に形成されているとともに、操作片 42 にはその後端から前方へ行くに従って側壁部 23、24 に向かって次第に近接し、前端がこれら側壁部 23、24 に当接するように傾斜させて形成される。押圧された側壁部 23、24 が操作片 42 に当接しつつ内方へ弾性変形すると、側壁部 23、24 が操作片 42 を押圧してこれを前方へ移動する操作力が発生し、これに伴って、操作片 42 を介して化粧料皿 4 が前方へスライド移動する。

40

【0047】

また、隙間 S は化粧料皿 4 と容器本体 2 の前壁部 22 との間に設けられ、隙間 S には上記で説明した弾性変形部材が設けられる。化粧料皿 4 が前方へスライド移動して隙間 S の

50

領域が狭まると、弾性変形部材は、化粧料皿 4 に押圧されて隙間 S 内で弾性変形し、側壁部 2 3、2 4 の押圧操作を解除すると、弾性変形部材が弾性復原することで化粧料皿 4 を元の位置まで後方へスライド移動させる。

【 0 0 4 8 】

本実施形態にかかるコンパクト容器 1 の開蓋段階のフック部形状を図 1 7 に示す。化粧料皿 4 には、前皿部 4 3 の前壁外面から前方へ突出させて押し上げフック 7 1 が形成される。押し上げフック 7 1 は、前皿部 4 3 の前壁外面から前方へ突出させた突出部 7 1 a と、突出部 7 1 a の前端に設けられ、上下方向へ可撓変形可能な可撓部 7 1 b と、可撓部 7 1 b の前端にほぼ断面三角形に形成される押し上げ部 7 2 とから構成される。押し上げ部 7 2 には、その下面に化粧料皿 4 の前方へのスライド移動に従い、順次上昇する上向き傾斜面 7 2 a が形成され、また、上面に化粧料皿 4 の前方へのスライド移動に従い、係合部 3 1 a を押し上げる押し上げ面 7 2 b が形成される。また、容器本体 2 には、その前壁部 2 2 に、押し上げフック 7 1 を前後方向に貫通する孔部 2 2 a が形成され、孔部 2 2 a には、押し上げ部 7 2 のスライド方向に順次上昇させて形成され、上向き傾斜面 7 2 a を摺接するガイド斜面 2 2 b が設けられる。

10

【 0 0 4 9 】

容器本体 2 の前壁部 2 2 上方には、蓋体 3 に係止される第 1 係止部 7 3 が突出形成され、蓋体 3 の垂下前壁部 3 1 a には、第 1 係止部 7 3 に面して、第 1 係止部 7 3 を係脱自在に係止させる凹状の第 2 係止部 7 4 が形成される。第 1 係止部 7 3 および第 2 係止部 7 4 が互いに係止されて閉蓋状態が保持される。

20

【 0 0 5 0 】

開蓋操作の際は、側壁部 2 3、2 4 を内側へ押圧して化粧料皿 4 が前方へスライド移動すると、これに伴って押し上げフック 7 1 が前方へ押し込まれる。押し上げ部 7 2 は、その上向き傾斜面 7 2 a がガイド斜面 2 2 b に摺接されることにより、可撓部 7 1 b が上方へ可撓変形しながら順次上昇し、押し上げ面 7 2 b が蓋体 3 の係合部 3 1 a に当接されてこれを押し上げる。蓋体 3 が押し上げられたことによって、第 1 係止部 7 3 および第 2 係止部 7 4 の係止状態が解除される。

【 0 0 5 1 】

コンパクト容器 1 の使用後は、蓋体 3 を容器本体 2 側に押し込み操作をすると、第 1 係止部 7 3 を乗り越えて第 2 係止部 7 4 がこれに係止されることで閉蓋される。

30

【 0 0 5 2 】

次に本実施形態にかかるコンパクト容器 1 において、フック部の第 1 変形例を説明する。

【 0 0 5 3 】

本変形例にあつては、図 1 8 に示すように、垂下前壁部 3 1 に代えて、通常の前壁部 3 4 が形成される。前壁部 3 4 は、容器本体 2 に合致する平面外形輪郭で皿状に形成された環状周側壁 3 0 の前端部に、その一部として形成されており、閉蓋状態では、容器本体 2 の前壁部 2 2 の外面とほぼ段差なく形成されている。

【 0 0 5 4 】

蓋体 3 と化粧料皿 4 の間にはフック部が形成される。フック部は、化粧料皿 4 の枠部 4 5 前端に形成される孔状の係合部 7 5 と、蓋体 3 より垂下形成されて係合部 7 5 に挿抜自在に挿入され、かつ、その先端が前方に突出していることで係合部 7 5 に係脱自在に係合するフック 7 6 とから構成される。

40

【 0 0 5 5 】

また、枠部 4 5 の前端に第 1 傾斜部 4 5 a が形成され、蓋体 3 の前壁部 3 4 の内側に第 1 傾斜部 4 5 a に対応させた第 2 傾斜部 3 4 a が形成される。

【 0 0 5 6 】

開蓋時には、係合部 7 5 が、化粧料皿 4 とともに前方にスライド移動し、フック 7 6 から逸脱してフック部の係合が解除される。この後、第 1 傾斜部 4 5 a が第 2 傾斜部 3 4 a に当接してこれを押し上げ、蓋体 3 を浮き上がらせる。そしてこの蓋体 3 を手指などで完

50

全に解放すればよい。

【0057】

さらに、フック76前端と係合部75の前端とに、互いに対面して一对の傾斜面78が形成されており、使用後は、蓋体3を手指で容器本体2方向に押し込むと、これら傾斜面78が互いに摺動することによって、化粧料皿4を前方へスライド移動させ、スムーズに係合部76にフック75が係合される。

【0058】

次に第2実施形態にかかるフック部の第2変形例を説明する。本変形例にあつては、先に図18を用いて説明した第1変形例との差異のみを説明する。

【0059】

本変形例にあつては、図19に示すように、化粧料皿4の前皿部43には、これより前方へ突設され、その上面に前方から後方にかけて上昇する傾斜面77aを有する突片77が形成される。開蓋時には、化粧料皿4の前方へのスライド移動に伴い、突片77がフック76の後端に当接しながらこれを押し上げつつスライドし、係合部75との係合が解除されたフック76上方へ押し上げて蓋体3を浮き上がらせる。

【0060】

上記第1および第2実施形態において、開蓋操作により後方および前方にスライド移動する化粧料皿4の構成を説明した。これに加え、この化粧料皿4のスライド移動によってその係合が解除されるフック部の構成を様々な変形例を用いて説明した。しかしながらこのフック部の構成は、これら例示されたものだけに限られない。化粧料皿4と蓋体3との間に形成されていれば、周知のフック部を適用してもよいことはもちろんである。

【図面の簡単な説明】

【0061】

【図1】本発明にかかるコンパクト容器の好適な第1実施形態を示す、上面から見た斜視図である。

【図2】図1のコンパクト容器の開蓋状態を示す斜視図である。

【図3】図1のコンパクト容器を底面から見た斜視図である。

【図4】図1に示したコンパクト容器の平断面図である。

【図5】図1に示したコンパクト容器の正面断面図である。

【図6】図1に示したコンパクト容器の側断面図である。

【図7】図1に示したコンパクト容器を、上方から見た分解斜視図である。

【図8】図1に示したコンパクト容器を、下方から見た底面分解斜視図である。

【図9】図1のコンパクト容器の側壁部を押圧操作した状態を示す、上面から見た斜視図である。

【図10】図9に示した押圧操作状態のコンパクト容器を、底面から見た斜視図である。

【図11】図9に示した押圧操作状態のコンパクト容器の正面断面図である。

【図12】図9に示した押圧操作状態のコンパクト容器の側断面図である。

【図13】図1に示したコンパクト容器の蓋体開放過程の側断面図である。

【図14】図1のコンパクト容器の隙間内に弾性変形部材として板状バネ配設した状態を示す要部拡大平断面図である。

【図15】図1のコンパクト容器の隙間内に弾性変形部材としてゴム状バネを配設した状態を示す要部拡大側断面図である。

【図16】第1実施形態にかかるコンパクト容器において、フック部の変形例を示す要部拡大側断面図である。

【図17】本発明にかかるコンパクト容器の第2実施形態において、開蓋段階のフック部を示す要部拡大側断面図である。

【図18】第2実施形態にかかるコンパクト容器において、フック部の第1変形例を示す要部拡大側断面図である。

【図19】第2実施形態にかかるコンパクト容器において、フック部の第2変形例を示す要部拡大側断面図である。

10

20

30

40

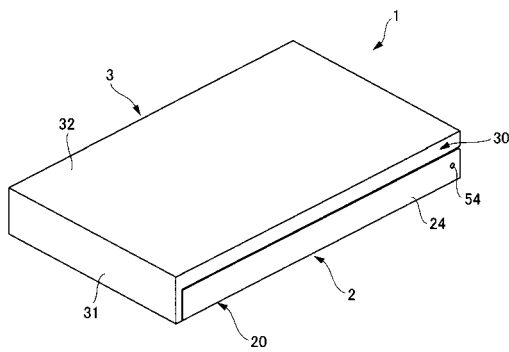
50

【符号の説明】

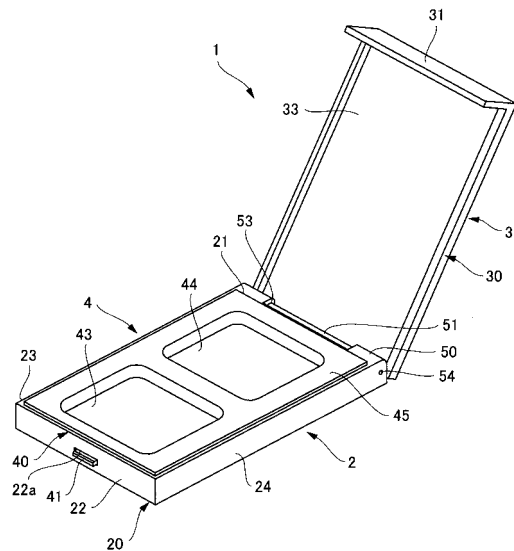
【0062】

- 1 コンパクト容器
- 2 容器本体
- 3 蓋体
- 4 化粧料皿
- 2 1 後壁部
- 2 2 前壁部
- 2 3 左側壁部
- 2 4 右側壁部
- 2 5 底壁部
- 3 1 垂下前壁部
- 3 1 a 係合部
- 4 0 前端部
- 4 1 フック
- 4 2 操作片
- S 隙間

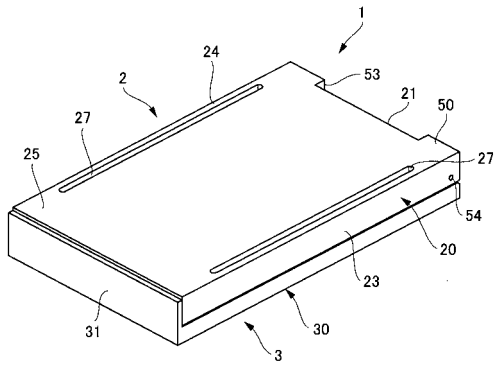
【図1】



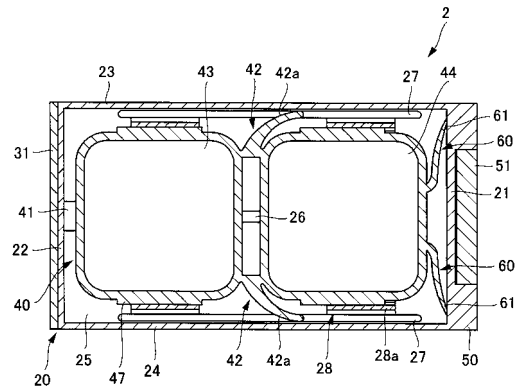
【図2】



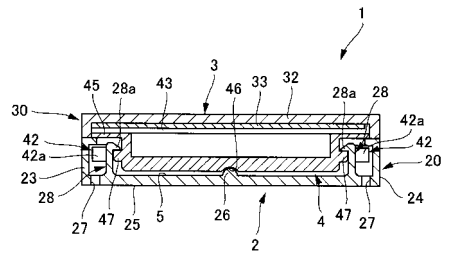
【 図 3 】



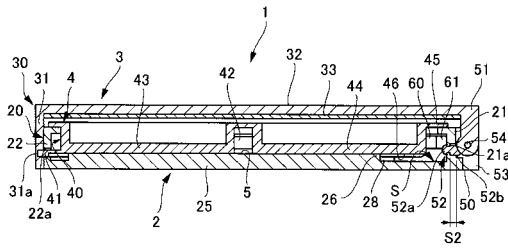
【 図 4 】



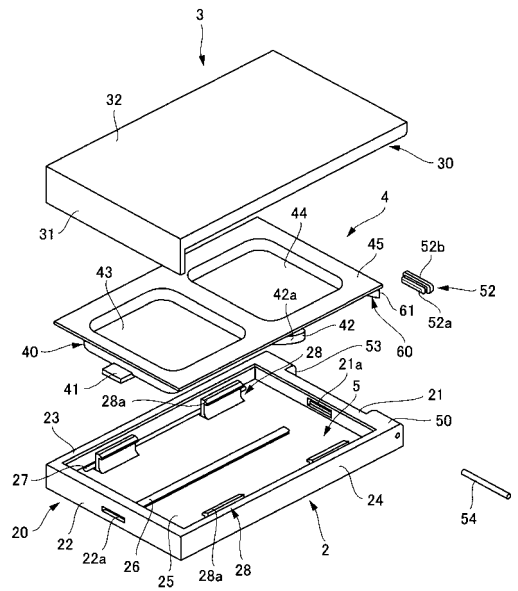
【 図 5 】



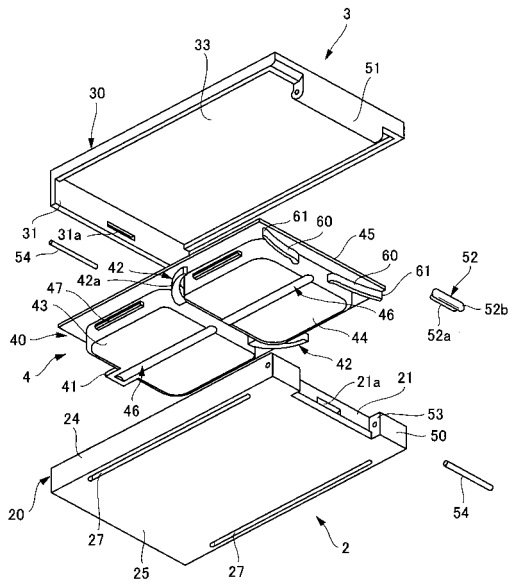
【 図 6 】



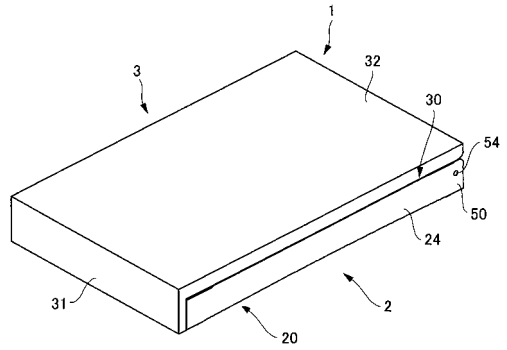
【 図 7 】



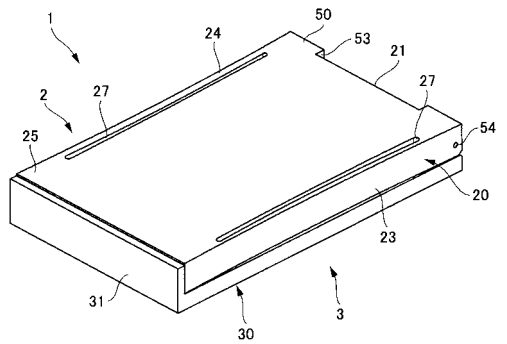
【 図 8 】



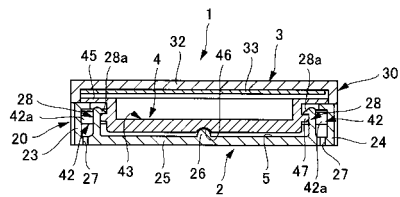
【 図 9 】



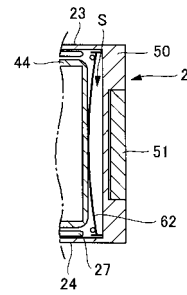
【 図 10 】



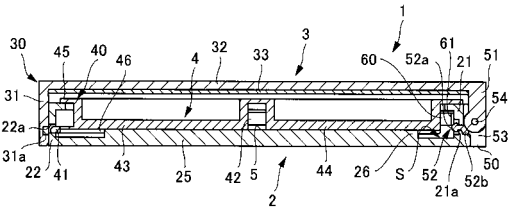
【 図 11 】



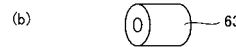
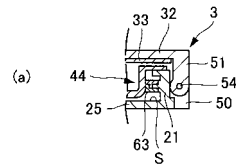
【 図 14 】



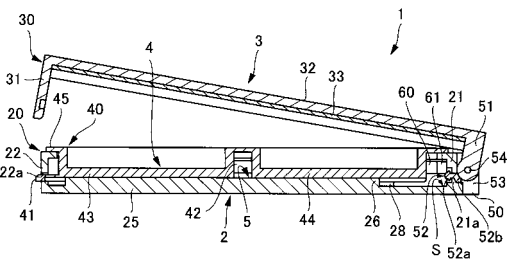
【 図 12 】



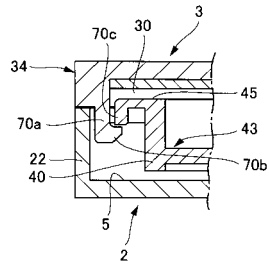
【 図 15 】



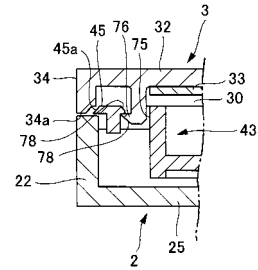
【 図 13 】



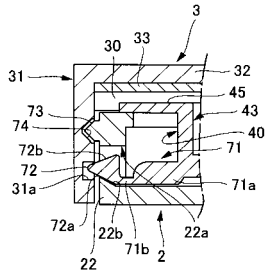
【図16】



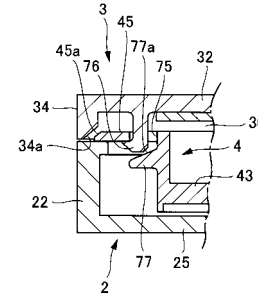
【図18】



【図17】



【図19】



フロントページの続き

(56)参考文献 実開昭59-73213(JP,U)
特開平7-227312(JP,A)
特開2007-289290(JP,A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
A45D 33/00